学校番号	２１４

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	世界史探究	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	「詳説　世界史」　（山川出版）						
副教材等	NEW　STAGE　世界史詳覧（浜島書店）　世界史用語集（山川出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

大きく国際秩序が変わる可能性のある現在、「いかにこの時代に対応し生きていくべきか」、歴史を学ぶことで多面的に考え、よりよい解を探そうとする習慣をつける。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
社会的事象の歴史的な見方・考え方をもつ。

【思考力、判断力、表現力等】
課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立つ。
【学びに向かう力、人間性等】
AI の情報が氾濫するであろう、これからの国際社会で、情報リテラシーを身に着け、主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者となることを目指す。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	現代の世界に関わる諸事象について，地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	世界の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、民族と文化および宗教の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	現代にいたる世界の諸課題について、よりよい国際社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される国際社会を構成する一員としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	諸地域の交流再編・	＊ヨーロッパ世界の変容 ＊アジア諸国の繁栄 ＊世界の一体化とヨーロッパ	a: 学習内容を日本史的・地理的事象と関連付け、世界の歴史に対する理解を深めている。 b:学習内容を多面的に考察し、歴史的経過や因果関係を適切に表現できている。 c: 近現代世界を理解する前提として、ユーラシア諸文明や世界の一体化の過程に関心を持っている。	定期考査	定期考査 発問	クロームブックでの課題
2学期	諸地域の結合・変容	・産業革命と環太平洋革命 ・ﾅｼｮﾅﾘｽﾞﾑの時代 ＊ヨーロッパの進出とアジア	a：現在の環境問題との関連にも理解を深めている。 b: 環境問題・貧富の差の広がることが民衆の心に及ぼす影響を理解し表現できる。 c: 資本主義や国民国家の形成について、意欲的に考察している。			
	諸地域の結合・変容	＊二つの世界大戦 ・第1次世界大戦 ・ヴェルサイユ体制 ・ 世界恐慌とファシズム ・第2次世界大戦 ＊冷戦の時代 ・第三世界の登場	a:何故、2度にもわたる大戦が起きたのか、回避できなかったのはなぜかについて 理解しようとしている。 b: 同上 c: 世界大戦の総力戦としての性格や、大戦が世界および日本に与えた影響について、意欲的に考察している。			

3学期	地球規模の課題	冷戦の終焉 ＊グローバル化する世界 ・主題学習「持続可能な世界を実現する統合のあり方」「現代世界の混迷の要因」	a:世界の動向と日本のかかわりに着目しながら、これからの日本社会に必要な知識を獲得している。 b: SNS でのフェイクを真に受けないために多角的な情報収集に努めている。反グローバル化は何故大きな潮流となっているのかなど、日本のみならず世界の現在の政治も考え、意見をいうことができる。 c：戦後史の理解を深めながら、持続可能な世界の構築に向けた自主的な考察を深めている。同上			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度